

1 所在地

〒036-8216 青森県弘前市大字在府町36番地

TEL 0172-32-3647

E-mail chouyou@hi-it.jp

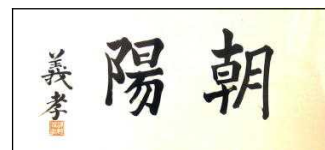


2 校名について

明治6（1873）年10月1日に弘前「一番小学」として創立された我が校は、その後「白銀小学」と改称されたが、明治11（1878）年7月3日の新校舎落成を機に、校名が「朝陽小学」と改称された。

この朝陽という名は、弘前城中にあった能楽堂の名前に由来する。幕末の三筆といわれた書家市河米庵（いちかわべいあん）によって揮毫された弘前城中の能楽堂の扁額「朝陽館」と、第九代藩主津軽寧親（つがるやすちか）公の「朝陽」の扁額を拝領したことから校名を定めた。

寧親公が書いた扁額は、残念ながら昭和24（1949）年の学校火災の際に消失した。そこで、昭和48（1973）年、創立百周年記念を機会に、校医の坪田繁樹氏を介して、津軽家十四代当主津軽義孝氏に『朝陽』及び『朝陽館』の書を依頼し、書いていただいたものである。



「朝陽」は、中国最古の字書『璽雅』に「山西日夕陽 山東日朝陽」と出てくる。「朝陽」は山の東側の意味で、朝の始まりに太陽を見ることができ、日がよく当たる所なので、「朝陽」が転じて「あさひ」「旭日」になったといわれている。

さらに、中国の古書『詩経』の大雅篇には、「鳳凰鳴矣 于彼高岡 梧桐生矣 于彼朝陽」とある。「世界を平和にする徳の高い天子が生まれる時には、朝陽が昇る東の丘に、突如、桐の林が生じ、鳳凰がやってきて、鳴き交わしながらそれを人々に告げる」という意味である。校歌の二番もこれを受けて作られており、朝日が輝くようなすばらしい学校に、徳の高い人間が育ってほしいという願いと、明治という近代日本の夜明けを告げる朝陽として、時代を切り開いていく人物が育ってほしいという願いが校名にあると考えてよい。

◎ 市河 米庵（いちかわ べいあん）

1779～1857。江戸時代末期の著名な書家。

◎ 図書室の額『梧桐生彼朝陽』（金澤隆 元市長書）について

出典は、中国最古の詩集といわれる『詩経』の大雅。

「鳳凰鳴く 彼の高岡（こうこう）に

梧桐（ごとう）生ず 彼の朝陽に」から

鳳凰が高い山の背で鳴いている。鳳凰のとまる梧桐（あおぎり）は、朝陽の当たる日うけのよい処に生えている。「梧桐生ずとは、なお明君の出ずるがごときなり。山の東を朝陽という。朝陽に生ずとは、温仁の気を被る。亦明德なり。（鄭箋）」

弘前市長 金澤隆

☞ 鳳凰は、霊泉（れいせん。醴泉。甘い泉の水）だけを飲み、60～120年に一度だけ実を結ぶという竹の実のみを食物とし、梧桐の木にしか止まらないという。『詩経』には「鳳凰鳴けり、彼の高き岡に。梧桐生ず、彼の朝陽に。」とある。

☞ 梧桐（あおぎり）は、アオギリ科の落葉高木。葉が桐に似ていて、樹皮が緑なので、青桐（あおぎり）といわれる。梧桐は中国名。亜熱帯地域に自生するが日本でも街路樹として植えられている。

3 校歌・校章

(1) 校歌について

本校の校歌は、大正5(1916)年4月14日に青森県知事を経て、文部省へ制定の認可を求め、大正6(1917)年2月7日に至って、ようやく認可の旨の指示があった。弘前市内小学校における校歌制定の最初であり、県内では八戸市立小中野小学校に次いで二番目と言われている。平成12(2000)年に「近代唱歌集成」の儀式的唱歌に全国でただ一校取り上げられた校歌である。

作詞の田名部彦一氏は、明治3(1870)年、弘前市禰宜町に生まれ、明治24(1891)年、青森師範学校本科卒業後、東京師範学校に学び、国文、歴史を修めた。卒業後、青森師範学校、富山師範学校で教鞭をとり、明治39(1906)年、奈良師範学校長に任じられた。『奈良県史』、『大和人物史』の編纂に従事、辞職後は弘前市に戻り、朝陽小学校の求めに応じて作詞することとなった。大正8(1919)年死去、享年51歳であった。

作曲の楠美恩三郎氏は、明治元(1868)年、中津軽郡清水村富田(現弘前市)に生まれ、東奥義塾を経て、明治16(1883)年、青森師範学校弘前分校初等師範科卒業。楠美家は、平家琵琶伝承の家柄であったが、その血を引いてか音楽に堪能で、東京音楽学校を卒業後、香川、京都の師範学校を経て、東京音楽学校教授となった。文部省唱歌編纂に携わり、校歌作曲を多数手がけた。仙台二校、青森師範学校の校歌など、いまだに愛唱されている名曲が多い。昭和2(1927)年死去。享年60歳であった。

～ 校歌の意味 ～

一 わがすむ里の ひろききに
まなびの園は 多けれど
春まずしむる 梅の花
薫りし庭は ここぞかし

二 豊栄上る 朝陽の
桐のはやしに 鳳なきて
世にもまれなる ほまれぐさ
摘むべき庭は ここぞかし

三 歴史のあとを 鑑とし
教えの光 身にそえて
雲にそびゆる 岩木山
高いいさおを 世にたてん

1番では、子どもたちを梅の花に例えている。

わたしたちが住む町の弘前には、子どもたちが学ぶ学校はたくさんあるけれど、春一番に季節を飾り、心を明るくする梅の花が、かぐわしく香っている庭は、ここ朝陽小学校だけである。

2番では、子どもたちを「あさひ」と「ほまれ草」に例えている。

中国の伝説のように、朝日がきらきら輝いて昇る朝陽小学校のある東の丘には、青桐の林ができ、鳳凰という鳥が来て鳴いている。そういうことが起こると、世の中を明るく幸せにする人が生まれると言われている。将来、人々が驚くような、人々の役に立つ素晴らしい子どもたちを、いっぱい見つけることができるのは、この朝陽小学校である。

3番では、子どもたちを将来像として「岩木山」に例えている。

日本や世界の優れた人や朝陽小学校の先輩をお手本にして、学んだ勉強や学問をしっかり身に付けて、雲を突き破ってそびえる岩木山のよう、立派な仕事や手柄を人々のために役立てる人になろう。

※『朝陽小学校校歌の意味性や願い』工藤 浩司 元校長(在任期間：平成12年4月～16年3月)の解説を基に再構成。

(2) 校章について



大正12(1923)年、本校が創立50周年を迎えた記念に校章を制定することになり、県立弘前工業高等学校に依頼した。翌13(1924)年3月11日製作が完了し、正式に使用することとなった。

製作者は、当時県立弘前工業高等学校教諭の橋本良雄氏で、本居宣長(1730～1801。江戸時代中期の国学者)の和歌「敷島の大和心を人問はば 朝日に匂ふ山桜花」から、花は弘前公園の桜を、朝の文字は朝日を表す朝陽の朝を、桜の周囲の光は朝陽の輝きで、本校に学ぶ子どもたちの希望を表している。

4 学校の沿革(創立150周年記念誌「朝陽」より)

明治6	10・1	私立東奥義塾に附設する小学科の生徒約半数(男子五〜六十名)を収容し、本町一丁目角三十二番地今村九左衛門(屋号大津屋)家屋に一番小学として創立(本市小学校の始めをなす)
	7	開校式挙行(同日に開校式を行った二番小学「和徳小」へ本校より器具書籍等を配分する)
	2・1	生徒増加により、上白銀町一番地、元家老西館宇膳家屋に移転し、校名を白銀小学と改称
	9・下旬	女子部を設ける(弘前公立学校女子就学の始めをなす)
	12・末	生徒数二百四名中女子四十八名、教員の上田ミヤ女史は本県における最初の女子教員となる
	8	1・
	9	4・
	7・15	初めて下等小学の卒業生を出し(人数不詳)上等小学の教科を教える
	11	7・3
	12・	東北巡幸の明治天皇、青森小学臨幸、本校生十名天覧に浴する
	14	7・
	12・	本町二番地に校舎新築落成、校名を朝陽小学と改称
	15	1・
	17	三上徳之助、本校教員長となる(弘前における教員長任用の始め)
	17	校名を朝陽小学校と改称し、初等科・中等科に編成
	18	年々、生徒数増加のため二教室(上下)増築
	9・21	蒲田葺、本校校長(和徳小兼任)となる(弘前における最初の校長)
	19	6・26
	8・24	弘前で初めての小学校合併運動会を行う(問題も多く26年から中止)
	20	7・
	6・20	中津軽郡朝陽尋常小学校と改称
	12・	大試験を行い卒業生五十九名出す(尋常小学校第一回卒業生となる)
	23	4・9
	9・19	市制施行に伴い、弘前市朝陽尋常小学校と称する
明治25	12・24	校舎一部(二教室)を増築
	4・2	初めて本校単独の運動会を常盤坂で行う
	5・20	三・四年生、久渡寺へ遠足
	6・11	両陛下御真影を市長より奉戴し、講堂において拝戴式を挙行
	8・1	卒業生を引率し大鰐に遠足(昨年汽車開通、明治36年まで毎年行う)
	10・24	日清戦争終局を告げ、本丸において祝捷会を催す(本校生徒参列)
	9・28	三・四年生、高照神社参拝のため遠足(大正10年まで毎年行う)
	8・20	学校医制度が設けられ、茂森町の奈良正医師が任命される
	4・5	二日間にかけて、初めての身体検査が行われる
	4・6	新校舎落成式を挙行
	7・14	学科の読書、作文、習字をまとめて国語とする
	3・19	唱歌が学科として認められる
	4・26	二学級増加により、職員室を移し教室として使用
	10・1	初めてオルガン一台を購入
	12・29	市長より創立記念日について通達あり(本校はこの時より10月1日を創立記念日とする)
	1・4	一学級増加のため城陽会館を仮教室とする
	3・21	初めて創立記念式を挙行
	6・5	校舎西南棟に二教室増築(城陽会館仮教室より移転)
	10・26	旅順陥落祝捷式を挙行(二年以上旗行列を行う)
	4・27	奉天占領祝捷式を挙行(四年男子国旗行列を行う)
	7・	日本海海戦祝捷式を挙行(児童旗行列を行う)
	5・19	藩祖為信公銅像建設寄附金全児童分(約二十五円)を市長に送金
	9・13	電燈取付完了
	10・1	校地が狭いことから隣地を買収(四畝二十歩)
	12・14	四年生以上約三百名で浅虫へ修学旅行を行う(浅虫修学旅行の始め)
大正元	9・13	明治天皇御大葬につき前庭にて遥拝式を挙行(15日まで休業)
	2	10・1
	3	1・
	3・5	創立四十周年記念式を挙行
	12・	御真影奉置所完成、弘前の小学校これにならう
	4	7・31
	12・21	凶作不況のため窮乏児童欠席多数
	5	5・8
	9・16	腸チフス感染者拡大により学校閉鎖(延長を繰り返し5月3日まで閉鎖が続く)
	11・29	塩分町隣地を購入し八教室を増築 時敏小学校に通学する在府町、本町以東の三年生以上の児童三百四名を本校に収容する
	2	7・
	2・7	児童四百二名、大開野に飛行機を見学する
	2・11	天皇陛下御真影拝戴により拝戴式を挙行
	10・25	校内研究授業を行う(山本一訓導第二学年読方)本校研究授業の始めにして、以後毎月一回行う
	7	6・5
	7・27	六年男女九十八名、青森港停泊の河内艦を拝観する
	10・4	体操用具跳箱一個備付 跳箱使用の始めとなる
	11・9	文部省より校歌認可(歌詞の一部訂正)と県知事から指令ある
	8	7・1
	10・31	紀元節祝賀式の後、校歌披露式を行う
	11・1	両陛下御真影新たに拝戴により拝戴式を挙行
		弘前公園にて市内小学校連合運動会を開催(これより毎年実施)
		授業前の体操を実施する(朝体操の始まり)
		初めて学級写真撮影を行う
		流行性感冒(スペイン風邪)蔓延により臨時休業(延長を繰り返し24日まで休業が続く)
		第一次世界大戦講和条約調印により講和祝賀式を挙行、四年生以上旗行列、夜は提灯行列を行う
		弘前で最初の本校第一回児童唱歌会を開催
		県の命により県下小学校六年児童に対して、算術、読方の一斉検査を行う(問題は県が作成、

		教員が他校に出向き監督、採点後に提出)
9	10・14	連合艦隊の軍艦観覧のため、五・六年生青森港で扶桑艦を拝観する
	10・30	教育勅語御下賜満三十年記念式典を挙
11	11・30	薪ストーブ三個初めて使用する (従来は教室に火鉢を用いた)
12	3・4	同窓者及有志を以て学校後援団体「朝陽」組織会を開催
	10・1	創立五十周年記念式挙 (記念行事、祝賀会は関東大震災により中止する)
	11・18	新設のストーブ六個設置する
13	3・11	帽章を制定 図案製作は県立工業学校の橋本良雄氏
	9・28	関東大震災で中止した創立五十周年の祝賀行事を実施
		女子同窓生 (代表 三上はつ子) よりピアノの寄贈を受ける
	10・31	本市小学校に初めて設備されたピアノ披露唱歌会を開催
14	2・11	三二会員 (明治 32 年工藤競氏教え子) より校旗が贈呈される
	3・10	校旗樹立式を挙
	3・14	初めて校内スキー大会を笹森山で行う
	8・1	学区内の青年団正進により、朝五時より六時半まで天満宮境内で夏季林間学校が始まる (児童五百名参加)
	9・13	五・六年生二百六十名、青森港停泊の連合艦隊比叡を拝観する
15	8・6	全国大会一回戦で長崎チームと対戦し惜敗
昭和 2	2・7	大正天皇御大喪で遙拝式挙 (8 日休業、紀元節も行わず)
	4・20	由島萬吉歯科医を初めて本校歯科医に嘱託する
	5・20	アメリカより贈られた青い目の人形が本市小学校に一個配布され、人形披露式を行う
	7・30	本年より夏季休業を 8 月 1 日から 31 日までとする (従来は 8 月 11 日から 31 日まで)
	8・7	大日本少年野球全国大会で京都代表乾校と対戦し敗退
	9・14	五・六年生三百七名、青森港停泊の軍艦を見学する
3	2・12	弘前スキー倶楽部主催第一回弘前少年スキー大会に参加出場する
	4・23	焼失した第二大成校三年生以上の児童を本校に収容し二部教授を実施する (9 月 7 日まで)
	8・8	京都市で開催の大日本少年野球全国大会で大阪姫島校と対戦し敗退
	8・9	野球遠征軍引率の白取校長、関西線木津駅で負傷、10 日死亡
	8・20	白取校長の学校葬を執り行う
	10・23	両陛下御真影拝戴により直ちに体操場に奉置し拝戴式を挙
	11・10	御即位御大礼につき奉祝式を挙 (四年生以上旗行列を行う)
昭和 4	4・8	富田小学校廃校 (前年 11 月 19 日校舍焼失) により、土淵川より西側桔梗野と童子森、本校通学区区域となり編入し始業式を行う
	6・	野球後援会を改組し体育後援会結成
5	6・15	時敏小学校全焼、19 日より同校三・四年生本校で二部授業を行う
	8・7	京都市で開催の少年野球全国大会で、兵庫県湊山校と対戦し敗退
	8・10	白取前校長の命日に当たり校庭に胸像建立 (三國慶一作) 除幕式を行う
	8・22	東京で開催の全日本少年野球全国大会に出場、二回戦で横須賀鶴窪校と対戦し敗退
	10・30	教育勅語御下賜四十周年記念式を挙
6	2・15	県下少年スキー大会 (弘前スキー倶楽部主催) で優勝
	3・26	卒業生等の寄付により初めてラジオを備え付ける
	4・24	新たに御下賜の両陛下御真影拝戴式を挙
	8・5	第八師団長三好一中将より国旗掲揚柱と大国旗寄贈される (市内小学校における掲揚柱建立の始め)
7	9・18	県下選抜少年野球大会 (県体育協会主催) で優勝
	10・16	市内小学校野球リーグ戦 (弘前教育会主催) も優勝
8	3・	数年前より児童数増加のため校舎新築の論議があったが移転主張者が優勢になり、最終的に本町一丁目突き当りと唐金橋通り西側で議論が紛糾する
	5・20	腸チフスが流行し児童・地区民に予防注射実施 (一般市民に対する予防注射の始め)
	7・10	弘前公園で第八師団の凱旋式を挙 (五・六年生参列)
	12・29	皇太子殿下誕生 (23 日) の祝賀式を挙 (三年生以上旗行列)
9	2・25	仙台放送局の依頼により本校児童唱歌と童謡を午後六時に生放送する (市内小学校児童放送の始め)
	7・23	全校児童に回虫駆除剤セメン錠を服用させる (全校児童寄生虫駆除の始め)
	8・8	六年生男女有志四十一名、嶽温泉に一泊して岩木登山を行う (児童岩木登山の始め)
	11・20	冷害凶作や経済不況により欠食児童多く、給食を実施
	12・4	児童校外自治団を組織
	12・7	校舎新築場所 (在府町五～九番地) で地鎮祭を行う
10	1・22	剣道寒稽古を開始 (二週間)
	2・10	県下少年スキー弘前予選会で本校男子優勝
	8・10	秩父宮、弘前歩兵第三十一連隊大隊長に着任 (全校児童奉迎する)
	10・18	在府町の新校舎へ移転
	10・21	新校舎落成式を挙
	11・12	従来の薪ストーブを廃止し、石炭ストーブを備え付け火入れを行う
	12・16	歴代校長の写真十六枚 (同窓会寄贈) を玄関廊下に掲げる
11	3・2	第一回市内小学校剣道大会 (弘前教育会主催) で第二位
	4・26	部内有志により体育奨励会が組織され、発会式・総会を開催
	6・1	運動場防球柵完成する 鉄棒、庭球コート、籠球コートも工事完了
	10・6	県指定体育研究校として第一回研究発表会を開催
	10・18	本校会場の東北・北海道工産物共進会に秩父宮ご夫妻ご臨席する

12	4・17	本校児童保護者会の発会式並びに創立総会を開催（会費月十銭）
	8・2	虚弱児童養護施設として深浦小学校に第一回海浜学校開設（～7日）
	11・	園芸部による菊栽培始まる
	11・3	新ピアノ贈呈式並びに披露唱歌会を開催
	11・5	体育研究指定校として第二回研究発表会を開催
13	7・4	弘前放送局設置（昭和13年2月）以来、たびたび本校児童の放送があったが、本日全国中継にて「郷土わらべうた」三種を放送する
	8・1	本年より各小学校校庭においてラジオ体操会を開催することになる
14	3・4	児童七十名、陸軍病院において学芸会を開催慰問する
	4・7	愛馬の日につき五・六年生輜重（しちょう）隊で馬術見学を行う
	6・19	文部省訓令で武道を準正科として五年生以上男子児童に課することとなり、本日より第六時限に実施する
	6・30	防空法にもとづき職員・高学年児童で防護団を組織
	7・27	中庭を開墾し農園とすると共に、相撲場の土俵竣工し、土俵開きを行う（8月2日校内相撲大会を開催）
	10・21	弘前市主催学校防空訓練研究会を本校で開催、防護団演習を行う
15	5・1	全校児童にツベルクリン皮内反応注射を実施
	7・7	修学旅行を函館方面へ二泊三日で実施する（団体百人以内の制限のため三班に分け日程を一日ずつ繰り下げて行う）五年生浅虫行
	10・30	教育勅語渙発五十周年記念奉読式を挙行
	11・10	紀元二千六百年奉祝式を挙行した後旗行列を行う 午後、中庭に建立する本校紀元二千六百年記念碑（碑文清明園高山文堂書）及び本校出身福土忠吉氏（市会議員）寄附の国旗掲揚柱の修祓式を行う
	12・1	市内学童剣道大会（弘前市教育会主催）で優勝し、旧藩公寄贈の日本刀を授与される
16	1・27	学校給食を実施（栄養改善を目標とす）
	4・1	国民学校令に基づき、弘前市朝陽国民学校と改称
17	2・15	日本軍のシンガポール占領を祝い旗行列を行う
	5・	三年以上の児童を二個大隊の少年団に編成、連日分列行進の訓練を行う
	7・下旬	六年生男女恒例の岩木登山を実施
	8・	朝陽少年団幹部練成会を実施（二泊三日の日程で校舎に合宿）
	9・	本校独自の講堂映画「トーキー的演出法」全県対象に公開発表
18	2・	猛吹雪を冒して輜重（しちょう）水源地（小沢）に全校スキー大会を挙行
	4・	工作においてグライダーの製作が盛んになり、各所で催された学童グライダー飛翔大会でグライダー部がしばしば優勝する
	4・	米機による焼夷弾攻撃に備え、四年生以上に消火訓練を実施
	6・	弘前市学童運動競技大会に出場の本校チーム、戦闘競技種目において優勝する
	7・下旬	岩木登山を少年団組織において実施
	10・1	創立七十周年記念式典を挙行
19	5・	米軍機による焼夷弾攻撃に備え女教師も宿直実施、一ヶ月で廃止
	5・	校庭を開墾し、かぼちゃ、とうもろこし等が栽培される
	6・	この頃から農耕・防空壕掘り、避難訓練等に追われ、正規の授業次第に困難となる
	10・	全校児童イナゴ採集、佃煮に加工のうえ、児童に分配する
20	1・3	剣道寒稽古を開始（10日に稽古納め校内剣道大会を実施）
	2・	市内学童剣道大会で優勝し、副賞として藩公寄贈の銘刀一振授与される
	4・	空襲に備え、ピアノを校長宅の土蔵に疎開する
	5・	旧船沢村弥生地区開墾のため、五・六年生児童、農具・下肥携行のうえ週二～三回、徒歩にて往復し、かぼちゃを栽培する
	6・12	渋谷区の学童本市に疎開、うち富谷国民学校児童、本校を使用する
	7・	校舎裏の崖に本格的防空壕数個完成、空襲警報頻発正規の授業ほとんど行えず授業再開、ただし師弟共々の放心状態続く
	9・16	米軍本市に進駐、女教員の出校を停止する（10月15日解除）
	9・26	アメリカM・P来校、国旗掲揚台に掲揚の日の丸の旗を押収する
	10・1	軍国主義教育に関係ある図書類や掛図を校庭に山積し焼却する
	10・	進駐軍本校のピアノを徴発する
	11・	青森師範学校、時敏に移転、時敏校の一～四年生は本校で二部授業
21	11・22	青森師範附属校として校舎・児童を文部省に貸与するに当たり、全職員の離任式・附属移行式および送別会を挙行
	3・	
	4・1	校名を青森師範学校男子部附属国民学校・同女子部附属国民学校と改称し、校舎及び児童を借用する
22	1・24	本校を始め、全市の国民学校にて給食を開始
	3・15	校舎を青森医学専門学校に譲渡し、本町二番地の旧校舎に移転
	4・1	六・三制発足により、従来の国民学校は小学校と改称、本校は男子・女子部を統合して校名を「青森師範学校附属小学校」と改称
	4・6	始業式を挙行 完全男女共学制をとる 校舎を中学校と共用のため二部授業実施
	4・	県下にさきがけて「社会科」実施、各地よりの参観者多し
	10・	市内学童駅伝大会で本校優勝
	1・	市内学童卓球大会において本校男女総合優勝
23	4・1	青森師範学校附属小学校の独立校舎を弘前公園内に設置し、児童を公募して新発足することとなり、弘前市立朝陽小学校の復活をみる
	4・1	本町二番地校舎及市公会堂に二十五学級収容して復興経営に当たる

	4・24	第四中学校、和徳中北側校舎に移転のため二部授業解消
	5・14	本校父母と教師の会結成大会を開催
	10・1	復興記念式典並びに記念行事を挙げる
24	4・1	学区を二分し桔梗野に一校を創設して第二朝陽小学校とし、本校を弘前市立第一朝陽小学校と改称
	5・28	第一・第二朝陽小学校合同運動会を開催
	9・1	第二朝陽小学校が桔梗野小学校と改称したことに伴い、校名を旧に復し、弘前市立朝陽小学校と改称
	10・23	午前四時五十分頃、北側校舎二階西端六年教室より出火（原因不明）、校舎全焼により、二十四日より二十七日まで授業交換休日の措置
	10・24	当面一年～四年は公会堂使用による一部授業、五年・六年は桔梗野小学校余裕校舎使用の一部授業案を決定し、市の承認を得る
	11・11	P T A主催朝陽小学校復興協議会開催（市長を始め二百五十名参集）
25	1・18	弘前大学教育学部校舎一部改造の仮校舎で三学期授業を開始
	3・31	朝陽小学校校舎新築促進委員会を開催
	11・13	グランドピアノ一台購入
	12・16	市内小学校卓球大会で本校優勝
26	5・5	本校こども郵便局が仙台郵便局長より感謝状を受ける
	10・1	こども郵便局を朝陽こども相互銀行に切り替える
	11・6	本校子供相互銀行が青森県貯蓄推進委員長賞（知事賞）を受賞
	12・25	在府町三十六番地に新校舎完成し移転
27	1・11	在相町より校旗の贈呈を受ける
	1・14	新校舎竣工落成式典を挙げる
	6・12	本校卒業生支那革命家山田純三郎氏揮毫の「至誠如神」の扁額を竹森同窓会長より贈呈さる
	6・16	本校児童学校放送の時間、弘前放送局より音楽放送をする
	7・14	本校標札を高山松堂氏に揮毫していただく
	8・16	校庭排水溝完成
	10・2	国旗掲揚台完成
	12・16	本校卒業生松野伝氏の「鉄石心」、高山松堂氏の「開発稟性」の扁額、竹森同窓会長より贈呈さる
28	7・10	本校卒業生今裕博士の「温慈恵和」の扁額、松野伝氏より贈呈さる
	9・4	小学校連合体育大会に五・六年生出場（三・四年生は応援）
	9・19	本校卒業生書家谷口雲泉氏の漢詩扁額贈呈される
	10・1	創立八十周年記念式典を挙げる
	10・24	本校卒業生彫刻家三國慶一氏より日展出品彫像が贈呈される
29	4・7	特殊学級を開設
	11・1	本校卒業生鎌田彦一氏より「鎌田文庫」図書購入資金が贈呈される
30	10・23	市内小学校音楽発表会を本校講堂で開催
	12・17	市内小学校卓球教室を本校講堂で開催、男女とも優勝
31	11・3	市内小・中学校器楽発表会を本校講堂で開催
32	3・	学校文集「あさひ」第一号を発行する
	9・15	三國慶一氏より鎌田彦一先生の胸像が寄贈される
33	7・19	朝陽小学校野球教室寄附のバックネット竣工修祓式・贈呈式を挙げる
	9・18	台風二十一号の大雨により唐金橋沿いの寺沢川増水、民家、橋梁流出のため午前授業その後講堂に避難者約百七十名を収容する
34	10・4	市内小・中学校児童生徒理科研究発表会を本校講堂で開催
	11・8	ラジオ青森主催模型飛行機記録会に参加、一・五・六位に入賞
35	4・1	文部大臣指定学校保健統計調査指定校及び県教委の学校保健指定校となる
	6・15	弘前市学校保健会の学校保健研究委嘱校となる
	12・9	朝陽こども相互銀行、地方表彰を受ける
36	10・17	朝陽こども相互銀行が大蔵大臣、日本銀行総裁より表彰される
37	4・7	特設の特殊学級一学級増を認められ発足
	6・12	学校薬剤師を配置
	6・23	三國慶一氏木彫「群像」寄贈される
38	4・1	特殊学級増設
	7・22	創立九十周年記念事業プール完成修祓式を挙げる
	9・15	創立九十周年記念大運動会を挙げる
	10・1	創立九十周年記念式典並びに鎌田記念会館修祓式を挙げる
39	10・19	全国よい歯の学校表彰会より表彰される
	11・22	青森県よい歯の学校、準優秀校として県教委・歯科医師会・東奥日報より表彰される（いずれも二年連続）
40	7・4	東側校舎二階北はずれ教室を会食室に改造する
41	6・29	学校放送室が完成する
	7・9	校庭西北隅にスキー山竣工
	10・30	よい歯の学校県下一位として表彰を受ける
	11・19	全日本よい歯の学校表彰会より表彰される
42	5・10	鎌田記念会館前に清明園の石を配置する
	9・18	北中庭に築山と石庭完成（緑化一年度）
	11・20	青森県健康優良校準一として表彰される
43	5・2	特別活動研究奨励校となる

	10・1	創立九十五周年式に第一回朝陽賞を授与する
	10・6	朝陽小PTA全国表彰受賞記念式典を鎌田記念会館で行う
	10・7	南中庭、池と花壇完成（緑化二年度）
44	6・29	春の野球教室で優勝
	11・27	プール南側に観察園完成（緑化事業完了）
	12・3	交通安全モデル校に指定される
45	7・19	市小学校水泳教室で男女とも総合優勝（以降五年に渡り七大会連覇）
	10・4	秋の野球教室で優勝
46	2・7	日本水泳連盟より水泳優秀校に選ばれる
	8・5	津軽地区野球大会において優勝
	8・9	県水泳大会において十七種目を制覇、他校を圧倒する
47	9・3	市総体水泳種目で女子三年連続優勝
	11・20	旧給食室を音楽室に改修
48	1・27	学区内篤志家の寄贈により一学年三教室及び体育館入口廊下に水道施設整備完了する
	5・27	創立百周年記念大運動会を実施、飛ばした風船のうち幾つかが黒石、十和田、八戸方面に到着する
	6・15	創立百周年記念プール浄化装置施設工事完了する
	6・30	春の野球教室で優勝
	8・30	津軽義孝氏の「朝陽」「朝陽館」の扁額寄贈される
	10・1	創立百周年記念式典（市民会館）、祝賀会を挙げる
	11・13	「朝陽小学校百年祭讃歌」作者サトウハチロー氏死去
49	8・18	少年野球県大会で準優勝
	10・8	市内秋季野球教室で優勝
50	8・30	弘前地区水泳選手権で男子総合優勝
51	7・18	市内水泳教室で男子総合優勝
52	8・5	津軽一円を襲った集中豪雨により水害発生し、本校が避難場所となる（本校の被害児童五十三名）
	9・15	弘前地区水泳選手権で男子優勝
	10・17	こども銀行表彰を受ける（県貯蓄推進委員会長賞）
53	8・9	屋根トタン葺替え工事全校舎完了する
54	7・1	市内野球教室で優勝
	11・17	野球用新バックネット父兄より贈られる
55	3・9	佐藤紅緑氏「希望の碑」完成除幕式を挙げる（翌年十月一日に案内板を設置）
57	3・15	十六教室の窓アルミサッシ戸取付工事完了する
58	5・26	日本海中部地震のため、校舎・校具に若干の被害を受ける
	10・1	創立百十周年記念式典・祝賀会を挙げる、PTA「朝陽」合本集を刊行する
	10・11	記念講演会を行う（女優 長内美那子さん）
	10・15	記念講演会を行う（ルポライター 鎌田慧さん）
59	11・7	東奥信用金庫茂森支店より津軽塗印籍文庫寄贈される
60	8・30	校舎改築促進のため期成同盟会を結成、発足総会を開催
	11・19	旧柴田幼稚園跡地が校地として本校に引き渡される
61	3・5	校舎改築地質調査始まる
	6・5	道路拡張工事始まる（旧秋田屋会館通り）
	7・6	校舎増築工事に着工する
	11・4	こども銀行が青森県貯蓄推進委員会会長賞を受賞し、みちのく銀行より感謝状を受ける
62	6・30	新校舎竣工（体育館を除く）
	7・11	新校舎に移転完了する
	7・22	旧校舎解体工事を開始する
63	6・30	体育館竣工
	9・30	プール及び校庭整地完了する
	10・1	校舎改築落成記念式典を挙げる 校庭に防球ネットが同窓会より寄贈される
平成元	5・9	校庭の上手芝生張りつけ・土砂入れ替え・鉄棒取付完了する
	6・4	校庭竣工 修祓式を挙げる
2	11・17	体育館裏に地下防火水槽設置 掘った土でスキー山を造成する
3	3・28	ミニバスケット部男子全国大会出場（ベスト8入り）
	9・28	台風十九号により体育館軒及び防球ネットに被害 臨時休校となる
4	6・20	生活科動物飼育舎整備する
	9・	学校五日制（月一回）実施
5	7・12	北海道南西沖地震により三階送水管に亀裂、水漏れ発生
	9・20	校歌額取り付け（平成4年度卒業生並びに協賛会より）
	9・25	創立百二十周年記念ねぶた運行を行う
	9・30	創立百二十周年記念式典を挙げる 協賛会より新校旗寄贈される
	10・1	同窓会名簿を出版する
6	2・28	才能開発コンテスト学校奨励賞を受賞
	3・9	旧校旗額取り付け（平成5年度卒業生より）
	4・6	新入生三十九人と減り、一学級となる
	5・25	チャレンジテストを全校的に実施する
	11・12	スクールバンド部東北大会（仙台市）に出場
	12・6	本校PTAが古紙再生促進センター東北委員会より表彰される（仙台市で表彰式）
7	1・20	児童会が中心となり、阪神・淡路大震災の募金を行う

	9・30	国旗掲揚塔の移転工事完了する
8	8・12	校庭排水工事完了する
	11・9	スクールバンド部東北大会に出場
	11・29	校門に砲金製銘板取り付け
9	3・7	境界土塁工事完了する
	4・14	弘大医学部附属病院で院内学級（病弱）開設・開級式を行う
	5・24	スクールバンド部マーチング東北大会（大曲市）で銀賞を受賞
	6・2	学区体育協会より大型テントの寄贈を受ける
	9・15	青森県小学校陸上競技大会へ五名の本校児童が弘前代表として出場
	10・25	スクールバンド部東北大会（仙台市）に出場
	11・22	スクールバンド部マーチング全国大会（群馬県前橋市）に出場
10	1・28	交通安全教育全国表彰を受ける
	2・6	金澤隆弘前市長書の「梧桐生彼朝陽」の扁額贈呈される
	4・1	弘前市福祉協力校の指定を受ける（三ヶ年指定）
	6・19	体育館ステージ幕P T Aより寄贈される
	7・3	卓球協会・学区体育協会・同窓会より卓球台二台寄贈される
	8・13	ミニバス部県大会（三沢市）出場
11	6・22	野球部部室寄贈される（下山清司氏より）
	11・30	市社会福祉大会で六年生発表する
12	3・20	屋外用防雨型掛け時計一寄贈される（平成11年度卒業生より）
	5・8	花壇整備工事～9日
	6・2	二階・三階廊下のクロス張り替え工事完了する
	6・21	野球部ベンチ設置、鉄棒移設工事完了する
	9・6	職員室へHi-it 端末設置し、市教育委員会とつながる
	11・15	中国青島衛生局、院内学級を見学する
	11・18	学区老人会とのお食事会を行う
	12・23	ミニバス部県大会へ出場し敢闘賞を受賞
13	2・6	ワークスペースへ本棚設置（平成12年度卒業生より寄贈）
	3・28	ミニバス部東北大会へ出場し敢闘賞を受賞
	9・1	読書ボランティア「読書おすすめ隊」発足式を行う
	9・29	第一回創立記念マラソン大会を実施
14	1・8	卓球台一台寄贈を受ける（猪股英則氏より）
	3・20	ミニサッカーゴールを設置（平成13年度卒業生より寄贈）
	3・30	校舎東側にラベンダー植樹（町田芳文氏より寄贈を受ける）
	4・16	部活動が地域クラブチームへと移行する
	5・14	千葉県八街市立朝陽小学校と「兄弟姉妹締結書」を交わし交流を開始する
	7・13	保護者ボランティア「夕陽の会」発足
	9・6	小連体参加するが二年続きの悪天候により中止
	10・2	台風接近により臨時休校
15	2・5	校庭にスキー山完成（玉田亮平氏）
	2・25	父母と教師の会、生活環境改善模範団体として県知事表彰を受ける
	4・23	読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞を受賞
	5・18	創立百三十周年記念運動会を行う
	8・5	創立百三十周年ねぶた合同運行を行う
	8・18	体育館ギャラリー扉取り付け
	9・25	校門脇に本校卒業生佐藤紅緑氏、石坂洋次郎氏の石碑完成
	9・26	創立百三十周年記念演奏会を行う（津軽三味線奏者 多田あつし氏）
	9・28	創立百三十周年記念式典・祝賀会を挙行
	11・14	千葉県八街市立朝陽小学校百二十周年記念式典に参加
16	4・23	りんご「朝陽」接ぎ木（工藤貴久氏）
	8・31	台風十六号接近のため臨時休校
	9・1	創立百三十周年記念石碑説明板取り付け
17	7・4	「ようこそ先輩（鎌田慧氏）」NHK全国放映
	7・13	ラベンダー刈り取り 四中三年生への贈呈始まる
18	1・21	地区連合町会長会議で防犯パトロール隊結成の協力要請
	1・26	体育館外壁、落雪のため破損（二年連続の大雪）
	6・28	鉄棒新設工事を行う（旧鉄棒撤去）
	11・17	朝陽小学校父母と教師の会、文部科学大臣表彰を受ける（東京）
19	8・17	千葉県八街市立朝陽小学校へ交流旅行～22日
	11・10	学習発表会麻しんのため延期
20	10・17	体育館強化ガラス入れ替え完了する
	12・28	社会福祉大会で児童発表する
21	1・8	児童・職員の下足箱設置
	10・1	創立記念マラソン大会は新型インフルエンザのため中止
	10・25	P T A主催バザーは新型インフルエンザのため、規模を縮小して実施
	11・7	学習発表会は新型インフルエンザのため中止
22	5・17	「子ども安全支援隊」発足式を行う
	6・7	ドリームタイム始まる（年四回） 第一回「弘前城があぶない！」講師 知坂元氏
23	3・11	東日本大震災（午後二時四十六分）停電により集団下校
	3・12	午前六時三十分には本校の電気復旧する

	3・14	大地震により臨時休校
	4・7	午後十一時四十分地震後停電となる
	4・8	児童出校後、午前で集団下校（給食中止） 午前十時に電気復旧
	9・13	全校遠足、雨のため校内で実施
24	6・20	台風四号接近のため午前授業
	9・18	「エコ！アルミ缶」スタート
	10・1	台風17号接近のため臨時休校
	10・2	創立記念マラソン大会を行う
25	1・11	創立百四十周年記念事業協賛会の設立総会を開催
	5・26	創立百四十周年記念大運動会を行う
	6・25	創立百四十周年記念に電動暗幕を体育館に設置（協賛会より寄贈）
	7・	創立記念招待野球大会・卓球大会を本校にて開催
	8・24	創立百四十周年記念ねぶた運行を行う
	9・29	創立百四十周年記念式典・祝賀会を挙げる
26	4・14	百葉箱を設置
	10・14	台風十九号接近により臨時休校
	12・5	太陽光発電施設整備工事完了する
27	3・25	小学校防犯カメラ設置工事完了する
28	4・12	東邦設備工業所より安全傘100本寄贈される
	8・18	校庭東側にスキー山を造成
	11・10	小学生雑紙回収チャレンジ優秀校として表彰される
29	8・7	P T Aより各普通教室に天井付扇風機二台ずつ設置
30	5・19	雨天のため、体育館にて運動会を実施
	10・1	台風接近に係る措置として、市内全小中学校が臨時休校
31	3・27	新寺町児童館老朽化に伴い、本校校舎内になかよし会を設置
令和元	4・27	弘前市健康教育研究委託事業研究指定校となる（二ヶ年指定）
	10・29	日本テレビ系列「秘密のケンミンSHOW」より、三年生りんご学習についてテレビ取材あり （放映日は12月12日午後9時より）
2	1・22	各教室及び音楽室エアコン設置に係る工事開始（～3月25日）
	3・2	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、市教委からの通知を受け、3月3日から3月25日 までを臨時休校とする
	3・20	感染症予防対策のため、卒業証書授与式を卒業生、卒業生保護者、職員のみで開催
	3・25	感染症予防対策のため、修了式を放送で行う
	4・1	難聴学級開設
	4・25	新型コロナウイルス感染症予防対策のため臨時休校（～5月6日）
	5・9	引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策のため臨時休校（～5月17日）
	6・1	市内小中学校のエアコン稼働式を本校で開催（市長、市議会議員、教育長来校）
	7・10	学校保健委員会開催（講師 東北女子大学 前田朝美准教授）
	8・29	トイレ洋式化工事始まる（～11月4日）
	10・1	ミニ運動会を実施（マラソン記録会）
	10・16	学習発表会一・二年生発表（低・中・高学年の三回で分散開催する 三・四年生発表は12月9 日、五・六年生発表は12月15日）
	10・19	新型コロナウイルス感染症予防対策のため臨時休校（～11月1日）
	11・12	市指定健康教育研究事業公開研究会を開催 二・四年生食育授業公開、実践発表、講演（講師 弘前大学大学院医学研究科 中路重之特任 教授）
3	3・19	感染症予防対策のため、卒業証書授与式を卒業生、五年生、卒業生保護者、学校運営協議会委 員及び職員で実施
	5・15	運動会を午前日程で実施
	6・17	学校保健委員会を開催（講師 公立七戸病院 小野正人院長）
	10・6	第六十七回東北地区国語教育研究協議会弘前大会「書くこと」分科会四年提案授業会場となる
	10・15	学習発表会一・二年生発表（昨年に引き続き分散開催する 三・四年生発表は10月18日、五 ・六年生発表は10月20日）
	10・23	四中学区小学生陸上交流会（弘前運動公園）に参加
4	3・18	感染症予防対策のため、卒業証書授与式を卒業生、卒業生保護者、学校運営協議会委員及び職 員のみで実施
	5・14	昨年に引き続き、運動会を午前日程で実施
	6・15	六年生修学旅行～17日（北東北に変更して三回目となる）
	9・2	第七十回弘前市小学校連合体育大会（三年ぶりの開催 六年生のみ出場）
	9・18	朝陽小キッズフェスを開催（これまでのバザーに替わるP T A主催の行事）
	9・20	学校保健委員会を開催（講師 市健康子ども部健康増進課保健師）
	10・22	学習発表会（学年ごとの入れ替え制で実施）
5	1・13	創立百五十周年記念事業協賛会設立総会を体育館にて開催する
	2・3	五・六年生スキー教室（青森スプリングスキーリゾートで二年ぶりに開催）
	3・17	感染症予防対策のため、卒業証書授与式を卒業生、五年生、卒業生保護者、職員と来賓を限定 して実施
	3・31	創立百五十周年記念看板を正面玄関上に設置
	4・24	創立百五十周年記念事業協力依頼のため市長・教育長を表敬訪問
	5・27	創立百五十周年記念大運動会を実施（協賛会より優勝旗並びにテント二張の寄贈を受ける）
	6・28	六年生修学旅行～30日（四年ぶりに行き先を函館・ルスツ方面に戻す）

8・19	創立百五十周年記念ねぶた運行を実施
9・30	創立百五十周年記念式典（市民会館）・祝賀会を挙行
10・13	創立150周年記念マラソン記録会
10・15	P T Aバザー”朝陽祭”開催
11・15	創立150周年記念音楽鑑賞教室 海上自衛隊大湊音楽隊
12・20	創立150周年記念全校かるた大会
6 2・10	創立150周年記念協賛会解散会・懇親会

5 歴代校長

教員長	三上徳之助	明治14. 1 2	～	明治15. 6
〃	田澤保次郎	明治17. 3	～	明治18. 6
〃	浅井次郎	明治18. 6	～	明治18. 9
初代	蒲田廣	明治18. 9	～	明治18. 1 1
2代	三上徳之助	明治19. 1 1	～	明治19. 4
3代	蒲田廣	明治19. 5	～	明治20. 2
4代	佐田正之丞	明治20. 2	～	明治22. 4
5代	森健枝	明治22. 4	～	明治29. 1 1
6代	赤平良輔	明治30. 3	～	明治39. 1 2
7代	八木橋平馬	明治39. 1 2	～	明治45. 3
8代	工藤栄二	明治45. 4	～	大正 4. 3
9代	成田健夫	大正 4. 3	～	大正 6. 3
1 0代	三上上壽	大正 6. 3	～	大正 8. 3
1 1代	三上上虎雄	大正 8. 3	～	大正13. 1 2
1 2代	白取清省	大正13. 1 2	～	昭和 3. 8
1 3代	白島口田	昭和 3. 8	～	昭和 5. 9
1 4代	中田三潔	昭和 5. 9	～	昭和 9. 5
1 5代	神田栄造	昭和 9. 5	～	昭和16. 3
1 6代	土屋直好	昭和16. 3	～	昭和19. 3
1 7代	川村卯六	昭和19. 3	～	昭和21. 3
1 8代	黒瀧保六	昭和23. 3	～	昭和27. 4
1 9代	阿赤石	昭和27. 4	～	昭和30. 1
2 0代	赤石平	昭和30. 4	～	昭和36. 3
2 1代	赤石平	昭和36. 4	～	昭和41. 4
2 2代	蒔苗小忠	昭和41. 4	～	昭和45. 1
2 3代	藤上藤為	昭和45. 4	～	昭和51. 4
2 4代	工山晋	昭和51. 4	～	昭和54. 4
2 5代	長尾光明	昭和54. 4	～	昭和59. 3
2 6代	白戸喜久蔵	昭和59. 4	～	昭和60. 4
2 7代	原喜道	昭和60. 4	～	平成 2. 3
2 8代	小田桐弘	平成 2. 4	～	平成 2. 7
2 9代	佐藤繁	平成 2. 8	～	平成 5. 3
3 0代	長尾幸治	平成 5. 4	～	平成 8. 3
3 1代	松木秀男	平成 8. 4	～	平成10. 3
3 2代	岩見禎二	平成10. 4	～	平成12. 3
3 3代	工藤藤浩	平成12. 4	～	平成16. 3
3 4代	工桑田眞	平成16. 4	～	平成20. 3
3 5代	齋藤厚	平成20. 4	～	平成23. 3
3 6代	知坂元	平成23. 4	～	平成24. 3
3 7代	竹内史宗	平成24. 4	～	平成27. 3
3 8代	工藤藤雅	平成27. 4	～	平成31. 3
3 9代	齋藤昭	平成31. 4	～	令和 4. 3
4 0代	山本正	令和 4. 4	～	令和 6. 3
4 1代	奈山良篤	令和 6. 4	～	